

平成26年度 病害虫発生予報 第12号

平成27年3月13日
栃木県農業環境指導センター

〇いちごの灰色かび病、うどんこ病の発生増加に注意しましょう！

予想期間 3月下旬～4月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

(1) 発生予想 発生量： **やや多い**

(2) 根 拠 ・ 現在の発生は平年並（平年比：ほ場率113%、発生株率40%）。(±)

・ 向こう1か月の降水量はやや多く、日照時間はやや少ない。(＋)

(3) 対 策 ・ 下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。

・ 発病果、果梗等は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。

・ 防除は予防を主体にダイマジン、カンタスドライフロアブル等を葉裏にも良くかかるように散布する。

(4) 備 考 ・ 微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に利用する。また、低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。

・ [「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果①、②」](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

(1) 発生予想 発生量： **多い**

(2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（平年比：ほ場率141%、発生株率：100%）。(＋)

・ 向こう1か月の降水量はやや多く、日照時間はやや少ない。(＋)

(3) 対 策 ・ 適正な温度管理、換気やかん水等を実施する。

・ 発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。

・ 発生が見られる場合は、ガッテン乳剤やアフェットフロアブル等を散布する。

(4) 備 考 ・ 硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、長時間の使用は避ける。

3 いちご ハダニ類

(1) 発生予想 発生量： **平年並**

(2) 根 拠 ・ 現在の発生は平年並（平年比：ほ場率110%、発生株率108%）。(±)

・ 主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(＋)

・ 向こう1か月の日照時間はやや少ない。(－)

(3) 対 策 ・ ハダニ類は下葉の裏に多いことが多く、必要に応じて葉かきを行い、薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

・ 天敵製剤の放飼前には、必ず一度ハダニ類を防除して密度を下げる。また、薬剤は天敵に影響のないものを選択し、放飼後も1～2週間は薬剤散布しない。

・ 天敵を導入したハウスでは、ハダニ類が部分的に発生しやすい。部分的に糸が張るような場合には、気門封鎖剤をスポット散布する。

・ 天敵製剤は適宜追加放飼することで効果が安定する。

(4) 備 考 ・ [「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

(1) 発生予想 発生量： **平年並**

(2) 根 拠 ・ 現在の発生はやや少ない（平年比：ほ場率45%）。(－)

・ 向こう1か月の気温はやや高い。(＋)

(3) 対 策 ・ 発生が見られたら、低密度のうちにカウンター乳剤やマッチ乳剤[シキリアザミマ]等のIGR剤で増殖を防止する。

・ 花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する。

(4) 備 考 ・ スピノエース顆粒水和剤やディアナSCは、天敵やミツバチへの影響があるので注意する。

・ [植物防疫ニュースNo.20（いちご：アザミウマ類）](#)、[「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果（続報）」](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・現在の発生はやや少ない（平年比：ほ場率57%、発生株率52%）。(±)
・向こう1か月の降水量はやや多く、日照時間はやや少ない。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・防除は予防を主体にフルピカフロアブル、ファンベル顆粒水和剤等を葉裏にも良くかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に利用する。また、低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。
・[植物防疫ニュースNo. 22\(トマト：灰色かび病\)](#)、[「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果①、②」](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生はやや多い（平年比：ほ場率177%、発生株率115%）。(＋)
・向こう1か月の降水量はやや多く、日照時間はやや少ない。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。
・肥切れ等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き施設外で処分する。
・発生が見られたら、ファンタジスタ顆粒水和剤やダイマジン等を散布する。
- (4) 備 考 ・抵抗性品種でも発病するレースがあるため、発生に注意する。
・[植物防疫ニュースNo. 17\(トマト：葉かび病\)](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

		現 況	発生予想		現 況	発生予想	
いちご	アブラムシ類	やや多	やや多	きゅうり	べと病	少	やや少
	コナジラミ類	平年並	平年並		きく	白さび病	やや多
トマト	コナジラミ類	やや少	平年並		ハダニ類	平年並	平年並

春の病害虫防除対策

- 水稲 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ媒介）
・本年もイネ縞葉枯病の多発が県中南部で懸念されます。被害の多かった地域では抵抗性品種への作付け転換や、同病媒介虫のヒメトビウンカの防除を行いましょ。また、飼料用イネも同様に防除を行いましょ。
・植物防疫ニュース（速報No. 4、18）を当センターHPに掲載中。
- いちご親株床
・親株床には病害虫の発生していない株を選別し、定植しましょ。
- なし 黒星病
・一次伝染時期となるりん片脱落期から開花期は最重要防除時期です。果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果があるDMI剤を散布しましょ。

1か月気象予報（予報期間3月7日から4月6日 3月5日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率とも40%です。日照時間は、平年並または少ない確率とも40%です。週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	30%	30%	40%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	40%	40%	20%

○農薬の使用方法が変わります

農薬の残留基準値を設定する際に新たな評価項目（短期暴露評価）が導入されたことに伴い、今後使用できなくなる農薬及び使用方法が変更される農薬があります。

農薬をラベルに記載された使用方法で使用した場合でも、今後改めて設定される農作物の残留基準値を超過する恐れがあるので、注意が必要です。

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。